

<生徒の感想より抜粋>

・私は普段ニュースを見ていても深く物事について考えることはありませんでしたが、1つ1つに疑問を持つことで理解を深めることができるのだと思いました。私自身気が付いていないだけで、世の中には知っているようでまだ全然知らないようなことが多くあるのだと教えてくださり、課題研究に向けて、一步を踏み出せたのだと思います。

・まず1つわかったのは、日本の常識は世界の常識じゃないということです。自分の夢を叶え、充実した人生を送るには、日本の常識だけにとらわれてはいけなさと感じました。世界に通用する人材となるには、自分でキャリアを作っていくこと、発言すること、伝えるものがあること、当事者意識をもつこと、1つ1つ足元から理解すること、が特に大事だと思います。今までを見直して、そのようなことを意識していかなければ、自分が思い描く人生を得ることは難しい、でもまだ今からなら全然遅くないですね。今、自分が吸収できるものすべてを吸収し、何一つ無駄なものはないと信じて、毎日が新しいものであるように努力します。

・なぜこれからの1年間、課題研究の授業をしていくのか理解することができた。探求の授業で自分でキャリアを作っていく力を身につけたり、自分で考える力を身につけたりすることができることが分かった。また、課題研究の授業を受けるうえで、「自分たちはあらゆるものの当事者である」という意識を持つことが大切である。そして、言葉の定義をしっかりと考えることが特に大事だということが分かった。

・「何も言わない人はいないものと同じ」という話を聞いて、意見を言って、自分の意志を伝えることの大切さを感じた。日本人は察してもらおう、言わないのに分かってもらおうと考えている人がたくさんいると思うので、しっかり思っていることを口に出していきたいと思う。それはグローバル化が進んでいる今、とても大切なことだと思った。

・私は自分の意見をなかなか口に出せないで、外国では何も言わない人は何も考えていないと思われると聞いて、ドキッとした。自分の殻をやぶり、いろいろな価値観に触れるためにもっと自分の意見を伝えていきたいと思った。

・まずは岡本先生の高学歴に驚き、私とは次元が違うなと思っていました。ですが話を聞いているうちに、そういうふうに思い込んで自分の位置を決めてしまうことがいけないことなのだと感じました。諦めないことが自分の未来を切り開くうえで最も大切なことなのだと学びました。私もまずはどんなに手の届きにくそうな難しいものでもいいから、目標をもってそれに向かって日々努力を積み重ねていきたいと思いました。

・自分は中学生の時から「何で勉強しているのだろうか」という疑問を抱いていて、ずっとその問いが解決せず、もやもやしていました。しかし、今回の講演会で自分が課題研究するときに先人たちの積み重ねた発見・業績をその研究に生かすためなのだということが分かりました。そして、課題研究を行うにあたって、客観的に物事を見つめることが大切だということに気づきました。

・「能力がないとかあるということより、きっかけを作る方が重要」自分は今まで自分にはできないと考え、挑戦しなかったことが多々あります。この言葉を聞いた時、今まで自分は能力のことばかり考え、それにとらわれすぎていたことに気づきました。「若いうちにたくさんのことを試すと将来とても役立つ」という言葉を聞いた時、自分はもっと積極的にいろんなことに挑戦すべきだと思いました。

・普段、何気なく使っている言葉や公式、簡単に読み取れると思っていた1つのグラフでも解釈の仕方がいくつもあることに驚き、グラフ1つで多くの疑問を持つことができると知ることができました。

・私は既にこれから何について研究したい、やりたいなど決まっていた。しかし、今回の講演会で自分の既に持つ問いに辿り着くまでに、一見単純そうで奥深い問いをたくさん解決しないといけないと思いました。その問いたちが自分のテーマをより深く、広い視野での研究をするカギになるのだなと感じることでこれから常に疑問を探すアンテナを張り巡らせる必要性を感じました。

・私が今回の講演でも興味深いなと思ったのは、留学に対する考え方です。私は今まで、留学をするというその行程だけで、自分の世界観や価値観は広がっていくものだと思っていましたが、大事なのは、留学をして、そこで何をするのか何ができるのかを問うことなのだと分かりました。これは、留学に対する考え方のみならず、他の事象や考え方にも通じるものがあると思います。また、1つの疑問に対し、そこに使われている言葉の定義から考えていくというのは深い理解をするために必要なことだと思いました。

・自分は何者なのか、何ができるのか考えることが大事だと分かった。そのために、「自分に合わない」とやることを狭めるのではなく、色々なことに取り組もうと思った。また、苦手意識を持っているものに対して、自分に言い訳をせず、自分から取り組まないと、周りの人の都合の良い方に流されてしまうと聞いて、自分から取り組むことの大切さを改めて実感した。そして、知っている気になっていた物事を一步踏み込んで理解しなければ応用もきかず、大事な決断も下せないと聞いて、果たして自分が本当の意味で理解していたものはあったのだろうかと思った。改めて色々な物事の本質の定義を調べて、理解しようと思った。

・私が一番心に残ったことは、「問いの細分化」についてのことです。与えられた問いや、自分の中で生じた問いに対して、どこまで深めていけるのかが重要だと思いました。また、自分が今までで分かっていることを理解することも、今までは当たり前だと思っていたけれど、1つ1つ丁寧に自分と向き合っていかなければいけないことだと思いました。

・僕は将来研究職に就きたいと考えているので、今回学んだ多くのことは大切にしなければいけないと思った。特に若いときに色々やっておくと、将来何か役に立つかもしれないという考え方は、目から鱗だった。僕は夢が定まっている分、興味のないことや関係のないことに挑戦したり取り組んだりすることがほとんどなかった。今回の話を聞いて、選り好みせずにできることは全て取り組みたいと思った。

・先生の「0から1を生み出すのは個人」という言葉が深く心に残りました。今まで私は一人が行動しても何も変わらないんじゃないかと思っていました。しかし、何かのきっかけをつくることはできるのだと聞いて、なるほどと思いました。これからは、自分に何ができるのか考えていきたいです。そして、自分のしたことが少しでもまわりに影響を与えたり、次の世代に残せるものとなったらいいと思います。

・終身雇用は崩れてきていて、自分は自らの力で転職したりして良いキャリアを作らなければならない、自分で考える力が必要であるという言葉は、これからの生き方を考える上で大切だと感じました。また、学問は役に立つところまで学ばなければならない、若いときに色々なことをやっていくことで、様々な選択肢をとれる。けれども、目の前にある宿題、授業を大切にしなければならないことが、今後の取り組むべきことを考える際に大切であることが分かった。